

令和 2 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

鯖江市地域公共交通活性化協議会

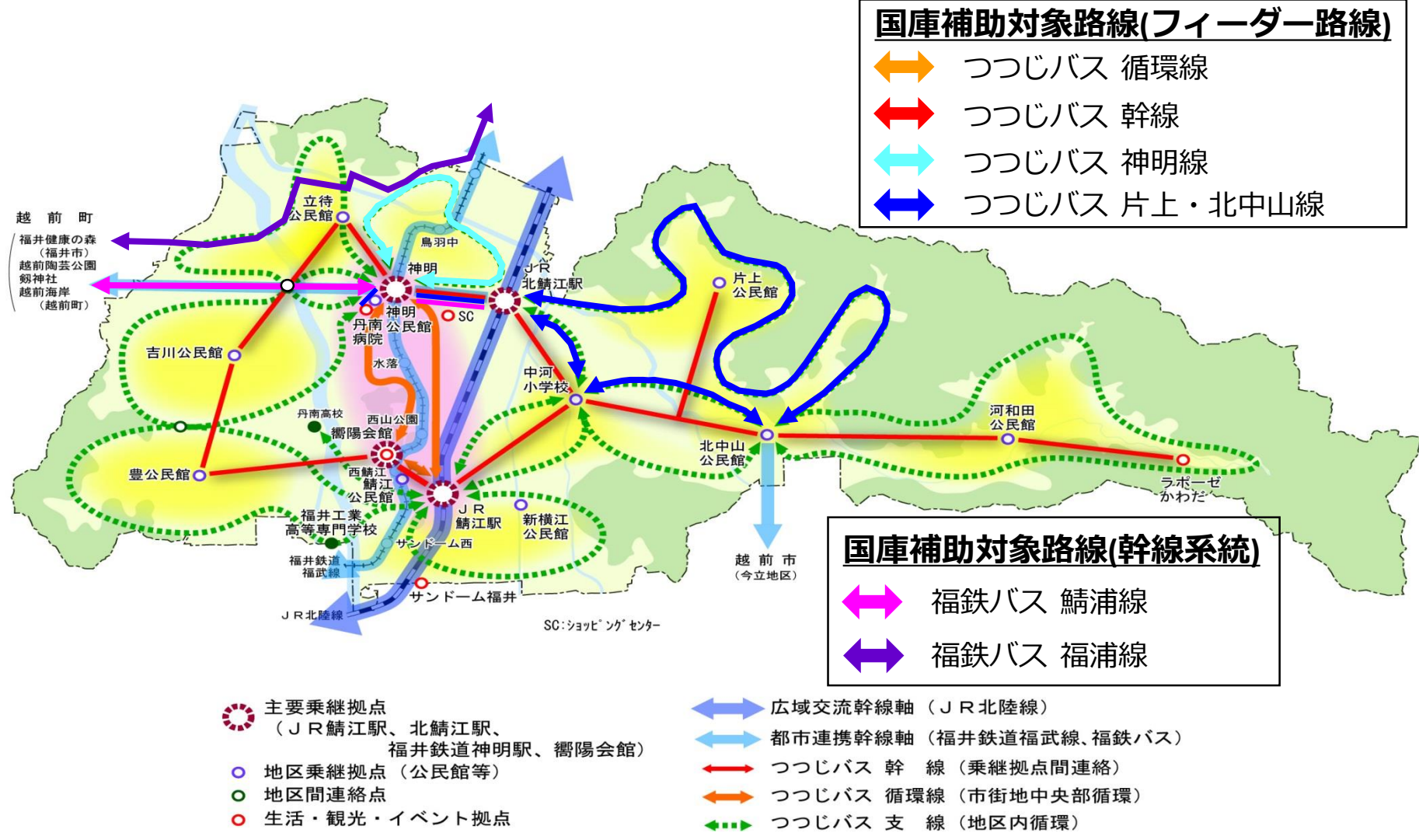
平成 2 7 年 4 月 1 日設置

フィーダー系統 平成 2 9 年 3 月 1 0 日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
引き続きの利用促進	高齢者サロン事業に 「つつじバス講座」の設置	魅力ある講座の展開

◆どこにでも歩いて行けるまち

南北を縦断する鉄道、隣接市町から運行する広域路線バスをつつじバスと接続し、鯖江市内外への交通アクセス利便性向上を図ります。



1 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現

- ◆ 高年大学へのアクセス回数増

2 まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現

- ◆ 待合環境の整備
 - ・ 北中山公民館等 3 箇所に待合上屋を設置

3 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現

- ◆ つつじバス情報案内の設置、つつじバスのリアルタイム位置情報表示
 - ・ J R 鯖江駅バス停にバス発着を案内するデジタルサイネージを設置
 - ・ グーグルマップの経路検索 (G T F S) の整備
- ◆ つつじバスの利用料割引制度の充実
 - ・ 学生用回数券の発売 (福井高専売店での外部販売)
 - ・ 定期券の発売
- ◆ つつじバス携帯時刻表のサイズアップ

4 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現

- ◆ 利用促進
 - ・ つつじバスの鯖江市内の地区別ダイヤ、個人向けのマイ時刻表の作成
 - ・ 市民団体が公募した短歌作品をつつじバス車内に掲示

5 高齢利用者の方々の地域の足となる公共交通の実現

- ◆ つつじバス講座の実施
 - ・ 高齢利用者の方々への引き続きの利用促進を目指し、高齢者サロンにてつつじバスの運行体系、乗り継ぎ方、お得な制度などの説明の実施。(別紙に参考資料を添付。)

◆評価の指標

- ・ つつじバスの年間利用者数
- ・ 福鉄バス（鯖浦線・南越線）の延伸バス停の利用者数

※地域に根付く公共交通機関として恒常的な利用があるかが重要

◆目標・実績（つつじバス）

期間	[H28] H28.4～H29.3	[H29] H29.4～H29.9	[H30] H29.10～H30.9	[H31] H30.10～R1.9	[R2] R1.10～R2.9
目標	－	113,900	228,500	229,200	229,900
実績	183,083	69,950	136,190	144,734	112,368人

◆福鉄バスの延伸バス停の利用者数

	鯖浦線		南越線	
	アル・プラザ鯖江	J R 北鯖江駅	ハニー東陽店	北中山公民館
H30	乗1,258/降1,048	乗992/降532	乗60/降14	乗24/降18
H31	乗1,438/降1,450	乗789/降318	乗183/降26	乗187/降11
R2	乗896/降983	乗589/降316	R2.10～路線規模縮小のため廃線	R2.10～路線規模縮小のため廃線

◆（参考）一便あたりの利用者数推移

路線名	H 2 9 (H28.10～H29.9)	H 3 0 (H29.10～H30.9)	H 3 1 (H30.10～R1.9)	R 2 (R1.10～R2.9)
循環線	7.47	6.90	7.57	6.11
幹線	12.08	10.22	10.21	7.91
鯖江南・新横江線	2.98	2.58	3.43	1.92
神明線	4.64	4.66	4.98	4.23
片上・北中山線	5.53	4.87	4.16	3.35
立待線	5.66	6.08	5.26	4.52
吉川線	7.08	6.16	6.30	5.18
豊線	7.28	6.97	6.14	4.12
中河・北中山線	3.75	3.72	3.90	2.49
河和田線	14.50	13.24	12.79	9.21
通学便市内高校ルート	9.12	11.85	10.54	7.09
通学便片上・北中山ルート	0.46	1.82	1.41	0.41
通学便立待ルート	0.91	2.02	3.02	2.55
通学便吉川ルート	0.19	1.04	1.75	2.73
通学便豊ルート	0.42	0.76	1.41	0.34
通学便中河・北中山ルート	0.19	0.46	0.13	0.06
通学便河和田ルート	3.25	3.43	3.97	4.27

考察

- 新型コロナウイルスの影響を大きく受けた（令和2年3月～）
特に令和2年4月および5月は対前年比で4割強ほどであった
- 網計画で設定した目標には届いていない
- 主な利用者が高齢者であることから、更なる高齢利用者の増加を図らなければならない
- 鯖浦線はアル・プラザ鯖江への利用として定着してきている
- 抜本的な改善には至っていないが、令和3年度は「路線の定着」を図っていく

全体

再編実施以前の利用者水準まで回復を図る

課題**対応方針**

高齢利用者への利用促進

・高齢者ライトユーザーへの利用促進を行う
対応策：公民館のサロン等で、バスの乗り方等を案内する出前講座を実施

新規の利用者層の獲得

・幅広い年齢層を呼び込む
対応策：冬季通学便の運行に関する広報掲載
ダイヤ改正に関する広報掲載

路線の定着

・ダイヤの周知を行う
対応策：マイ時刻表の作成、乗継情報の発信
Googleマップへのバス情報アップロード
バスロケアプリの普及促進

◆ つつじバス講座の実施

引き続きの利用促進を目指し、令和2年度においては高齢者サロン事業に「つつじバス講座」を設置し、つつじバスの運行体系・お得な制度・時刻表の見方・乗継ぎ方などの説明・周知を行いました。

◆ 実施風景



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月12日

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: つつじ(株)、越前観光(株)、鯖江交通(株)、鯖江高速観光(株)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ(株)	つつじバス (循環線、神明線、片上・北中山線、立待線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便片上・北中山ルート、通学便立待ルート)			○再編前参考数値 [H28]H28.4～H29.3 実績 183,083人 ○目標・実績 [H29]H29.4～H29.9 目標 227,800人(*113,900人) 実績 69,950人 [H30]H29.10～H30.9 目標 228,500人 実績 136,190人 [H31]H30.10～R1.9 目標 229,200人 実績 144,734人 [R2] R1.10～R2.9 目標 229,900人 実績 112,368人 ※一便あたりの利用者数推移 ○○線 [H29]→[H30]→[H31] →[R2] 循環線 [7.47]→[6.90]→[7.57] →[6.11] 幹線 [12.08]→[10.22]→[10.21] →[7.91] 鯖江南・新横江線 [2.98]→ [2.58]→[3.43]→[1.92] 神明線 [4.64]→[4.66]→[4.98] →[4.23] 片上・北中山線 [5.53]→[4.87] →[4.16]→[3.35] 立待線 [5.66]→[6.08]→[5.26] →[4.52] 吉川線 [7.08]→[6.16]→[6.30] →[5.18] 豊線 [7.28]→[6.97]→[6.14]→ [4.12] 中河・北中山線 [3.75]→[3.72] →[3.90]→[2.49] 河和田線 [14.50]→[13.24]→ [12.79]→[9.21] 通学便 市内高校ルート [9.12]→[11.85] →[10.54]→[7.09] *片上・北中山ルート [0.46]→ [1.82]→[1.41]→[0.41] *立待ルート [0.91]→[2.02]→ [3.02]→[2.55] *吉川ルート [0.19]→[1.04]→ [1.75]→[2.73] *豊ルート [0.42]→[0.76]→ [1.41]→[0.34] *中河・北中山ルート [0.19]→ [0.46]→[0.13]→[0.06] 河和田ルート [3.25]→[3.43]→ [3.97]→[4.27] ○分析 つつじバス全体として、減少している路線は、固定ユーザーの利用状況が大きく影響していると思われます。高齢利用者が入院や病氣等をきっかけにバス利用を控えるようになっていると現場の運転手からも聞いています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、バス利用での外出が大きく減少したことにより、R2.3およびR2.6～R2.9においては対前年同月比で約70%程、R2.4～R2.5においては対前年同月比で約40%程度の利用となっています。特に市中心部に位置する丹南病院においては面会禁止を行っている影響もあり、対象の路線(循環線・幹線・神明線・中河・北中山線・立待線・吉川線)の便あたりの利用減に影響を及ぼしています。 通学便「*」路線については、徐々に路線の認知度が上がっているものの、今冬の暖冬が利用者減少につながった要因と考えています。	
越前観光(株)	つつじバス (循環線、幹線、鯖江南・新横江線、豊線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便豊ルート、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート)	当初計画では、幅広い年代層(若年層、労働層)を取り込むため、通勤通学を念頭においた路線体制をとっていましたが、H29.4月の再編から大きく利用人数が減少しその後横ばいに移行していること、また通勤通学利用も限定的であることから、まず、つつじバスの主要な利用者である高齢者の利用回復を図ることにしました。この一環として、鯖江市の行政出前講座にて「乗ろう・守ろうみんなのつつじバス」の講座を企画し、令和2年度については全4カ所の高齢者サロンにて、つつじバスの運行体系の説明および、お得な制度の周知を行うとともに時刻表の見方の説明を通して、複数の路線を乗り継いで目的地向かう方法の説明を行いました。	A	計画に基づき実施できました。	再編前の利用者水準(183,000人)まで回復することがまず重要だと考えています。 左記に、固定ユーザーの利用状況の影響が大きいと書きましたが、いかに免許返納等の新規層を取り込めるかが重要だと考えています。今後については免許返納者に対して利用者無料証を配布していますが、その際の説明の充実と、今後も一層高齢者サロン等に赴き、乗り方講座など直接PRに力を入れて行ってきたいと考えています。
鯖江交通(株)	つつじバス (循環線、吉川線、通学便吉川ルート)				
鯖江高速観光(株)	つつじバス (循環線、幹線、鯖江南・新横江線、片上・北中山線、立待線、中河・北中山線、河和田線、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート)				

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月12日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	鯖江市地域内フィーダー系統確保維持計画
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	鯖江市は、中心部はJR北陸線と福井鉄道福武線の2社の鉄道が縦断していることにより公共交通の利便性が確保されているが、鯖江市西部は日野川により、鯖江市東部は東部に長くのびる地理により中心部へのアクセスが制限されている。高齢化による運転免許返納や市中心部への医療施設・商業施設の集中により、東西の集落と市中心部を結ぶ公共交通による移動手段はますます重要となってきた。今後も市中心部への拠点集中が見込まれることから、鯖江市は「どこにでも歩いていけるまち」をスローガンに、高齢者だけでなく市民全体が公共交通による利便性を享受できるよう公共交通網の整備を図る必要があると感じている。